



## 文化的アイデンティティー

Vivian Hsueh-Hua Chen

シンガポール 南洋理工大学 助教授

### 文化的アイデンティティーとは？

文化的アイデンティティーとは、文化的な特徴をもつ特定のグループと個人との一体感、またはそのグループへの帰属意識を指します。文化的特徴としては、国籍、民族性、人種、性別、宗教などが挙げられます。文化的アイデンティティーは、伝統、遺産、言語、美意識や基準、習慣などの知識が共有される過程で形成され維持されます。人は多数の文化的グループに共感し、属するため、文化的アイデンティティーは複雑で多様なものです。以前は、文化的なグループに属する個人のアイデンティティーは明確で確立されたものだと考えられていましたが、最近では、場所や時期といった状況の変化に影響される、流動的なものだと考えられるようになりました。異文化間の交流が増加した国際的な社会では、文化的アイデンティティーは様々なコミュニケーションの場面において常に提示、交渉、持続、試されるものなのです。

### 誰がこの概念を使用するのか？

文化的アイデンティティーの概念は、文化交流学に限らず、心理学、歴史学、言語学や地域学等、文部科学における多様な分野において、学者たちに用いられています。コミュニケーション学や文化学の学者は、文化的アイデンティティーとその構成要素を分析すべく、コミュニケーションの方法や習慣について研究します。学問以外の分野では、多様化する社会の中で、人種的、また民族的に社会的隔たりを受けるグループのアイデンティティーを肯定し、歓迎を促す一つの方法として、民間団体に使用されています。

### 異文化ダイアログとの関連性？

個人の文化的アイデンティティーは、個々の社交状況における他者との関係の中で構築されます。ゆえに、全ての文化的アイデンティティーは他者の存在や文化的習慣を認識することで形成されるのです。人は異文化間でのダイアログ（会話や交流）を通し、他者との類似点また相違点を見つけ出すことで自己の文化的アイデンティティーを確立していきます。異文化ダイアログを通して、個人の文化的アイデンティティーは常に定義し直され、相互に交渉されるものなのです。

### 今後の課題

文化的アイデンティティーの概念は、多文化社会や近代西洋植民地化の歴史を持つ社会で主に研究が行われてきました。中でも、文化的アイデンティティーに関する理論形成、また実証研究においては、1960年代の市民権運動、1980年代のアイデンティティー政治に影響を受けたアメリカ合衆国と英国が中心となってきました。その結果、存在する文化的アイデンティティーに関する研究は、その他の地域の文化的、社会的背景を反映したものではありません。中でも単一民族国家が多いアジアは、文化的アイデンティティーに関する研究が未成熟な地域のひとつです。西洋文化以外に根付いた、土地特有の知識を共有し、高めていくことで、さらにこの概念を発達させていくことができることでしょう。



参考文献

- Fong, M., & Chuang, R. (Eds.) (2004).  
*Communicating ethnic and cultural identity*.  
Lanham, MD: Rowman & Littlefield.
- Kim, Y. Y. (2007). Ideology, identity, and  
intercultural communication: An analysis of  
differing conceptions of cultural identity. *Journal  
of Intercultural Communication Research*, 36(3),  
237-253.
- Miike, Y. (2007). Theorizing culture and  
communication in the Asian context: An  
assumptive foundation. *Intercultural  
Communication Studies*, 11(1), 1-21.

翻訳者：竹西 明理